

「檸檬の島」(二幕五場)

西史夏

【登場人物】

姫田丈ひめだたけし (35) … 姫田家次男。 姫田果樹農園経営。

姫田奈津子なつこ (53) … 丈の叔母。

姫田亨とのおる (40) … 姫田家長男。 丈の兄。 県職員。

姫田咲さき (15) … 亨の娘。

姫田茜あかね (31) … 姫田家末っ子。 丈の妹。 編集者。

室井秀文むろいひでふみ (60) … 七風村農業組合長。 姫田果樹農園元従業員。

笹倉日登美ささくらひとみ (41) … フリーライター。 茜の元共同経営者。

淡路島の西側にある、海近い小さな村落「七風村」ななかぜむら。玉葱

栽培が主な生業であったが、阪神・淡路大震災直後に玉葱畑の斜面から、太平洋戦争末期に遺棄された薬物缶が発見され、七風村産の玉葱が取引されなくなってしまう。その際、イメージ刷新のためレモンをはじめとした果樹を中心にした生産に切り替える提案したのが、当時村の農業組合長をしていた姫田譲であった。幸いレモン栽培は軌道に乗り、「七風レモン」はブランド果実として出荷されるようになる。

震災では、村民十数名が家屋倒壊により死亡したが、その中の一人が譲の妻・安芸子だった。安芸子の死を忘れ

ようとするかのように譲はレモン栽培に没頭する。しかしその譲も、安芸子が亡くなった五年後の春に木から落ちて寝たきりになってしまう。

これは、阪神・淡路大震災から二十年後の姫田家の物語である。

海岸からレモン畑を登って来ると、そこに姫田家はある。地震後に建て直したささやかな木造二階建て家屋。母屋の隣りには、かつて従業員の宿舎だった二間ほどの平屋の離れと納屋があり、今は奈津子の住まいになっている。こちらは古くて、雨漏りまでする始末。

母屋の一階は、奥にある台所へ繋がる居間になっており、納屋に収まりきらない鍬や鋏などの農具が、収穫された「七風レモン」の箱と共に無造作に置かれている。その一角には、農具と不釣り合いな油絵のキャンパスがイーゼルに物々しく立て掛けてある。書きかけのその絵は、どうやら女の肖像画らしい。周囲には、子どもが書いたらしい瀬戸内の風景画が散らばっている。

部屋の隅に電話機が一台。中央には食卓テーブルがあり、ここが来客スペースも兼ねている。大きな窓からは、レモン畑を見下ろすことが出来る。

上手にある玄関とは逆の下手側に二階への階段。譲はそこを上った和室にいる。譲が家族を呼ぶときは、ブザーを鳴らすと一階に聞こえる仕組みになっている。

第一幕

1

2015年十月。グリーンレモン収穫期。
真昼。

秋だというのにまだ扇風機が出ている。
テーブルの上には、グリーンレモンを盛った果物かごと
ブタの蚊取り器。

部屋の隅に車椅子が置いてあり、身体の不自由な人間が
住んでいる事がわかる。

無造作に髪を束ねた奈津子が、箸を並べたり、麦茶の入
ったヤカンを置いたり、食卓の準備をしている。

その奈津子を相手に、あがり込んで話をしている室井。

室井 (麦茶を飲みながら…) …にしても、あの公民館に三百
人入れるっていうんやから、驚くわなあ。

奈津子 ほんまに、そんなぎょうさんの人集まるん？

室井 集まるんやのうて、集めるんやがな。県知事まで来るん
やで、バスでもなんでもなんぼでも出して、島中から集めて
くるわいな。

奈津子 たいそうやねえ。

室井 なっちゃんは、三百人の前でスピーチしたことあるか？

奈津子 無いけど。

室井 俺もない。

奈津子 すごいなあ。

室井 (まんざらでもなく) すごない、すごないで。

奈津子 せやけど、しゃべりはるんでしよう。

室井 これからやて。まあ、もう緊張してるけどな。

奈津子 でも慣れてはるさかい、上手にしゃべりはるって。組
合長さんやもん。

室井 それでも、農会で集まる人数いうたら、せいぜい二、三
十人やで。なんぼなんでも…

奈津子 いやあ…すごいわあ…偉なりはったわあ…室井さん。

室井 なっちゃん、勘違いしたらあかんで。俺の名声が高まる
のはこれからや。心を打つスピーチをしてこそ、偉大な人物
になれるんやないか…中卒のこの俺が…(感極まり泣く)。な
っちゃん！

室井、奈津子に抱きつく。

どさくさにまぎれてお尻をさわる。

奈津子 ちよつと、やめて…やめんかい、どあほ！

奈津子、お盆で室井の頭を一撃。

室井 お尻はまだまだ四十代やな。

奈津子 氣い抜いたらすぐさわるんやから。

室井 歴史に残る男に乱暴やな。

奈津子 …歴史。

室井 …そや。

奈津子 …どこの。

室井 この、七風村のやがな。いや、もはや淡路島せんたいの
やね…

奈津子 ふうん…

室井 これ…(一冊の文庫本を出す)

奈津子 なにそれ。

室井 洲本の本屋で買ったんや。

奈津子 だから。

室井 バス停の隅くたに、小さい汚らしい本屋があつてなあ…
ふらつと寄つたんや。ほんで、店番しとつたじいさんに「今
度スピーチしますねんけど、どないか参考になる本はあらし
ませんやるか」と聞いたんや。ほんなら、それがその店の主

人で、「大将、ええスピーチをするためには、ええ本を読まなアカン、文学を読まなアカン」と言いよつて、ホウ：と、思うたんや。

奈津子 ……それで。

室井 ……太宰治。

奈津子 は？

室井 太宰治。

奈津子 ……ああ、この本。

室井 聞かんでええんかあ：

奈津子 え？

室井 ……本のタイトル。

奈津子 ああ、なに読んでるん。

室井 『斜陽』や。

奈津子 ……『斜陽』。

室井 斜めに、太陽の陽と書いて、斜陽と読むんやで。

奈津子 そうやねえ。

室井 斜陽と書いて、夕日のことを言うてはるんや。やっぱす

ごいなあ、太宰は。

奈津子 え、それ太宰の考えた言葉と違うんやん別に。

室井 いやいやいやいや：わかっとらんなあ：なつちゃんは、

太宰治、『斜陽』、サンサンと降り注ぐ夕陽に照らされてあの

じいさんが文庫本をぺかーっと差し出したとき、ピンとき

たね、俺は。アツ、これは本物や、本物の文学やつてね：ハ

ハハハハ：

奈津子 ……で、どないやつたん？

室井 ん？

奈津子 読んでみた感想。

室井 いや、まだタイトルだけ。

奈津子 ええつ。

室井 わかっとらんなあ：なつちゃんは。まずはタイトルをし

みじみ読む、味わう。文学はな、そこからスタートするんや。

奈津子 ……なんか、えらい先生みたいやね。ようわからんけど。

室井 いやいやいや：ハハハハハ：

奈津子 でもこの本、シミだらけやで。ただの売れ残りやつたりして。

室井 え。

首に手ぬぐい、作業着姿の丈が帰って来る。

丈 あつつう。なつちゃん、タオル、タオル。もう手ぬぐい

ボトボトやわ。(シヤツを脱ぎ捨て、ズボンをおろし)

室井 売れ残り：

丈 あ。おつちゃん、いらつしやい。

室井 おう、丈：

丈 なつちゃん一人やなかってんな。(ズボンをあげる)

丈、扇風機にあたりながら麦茶を飲む。

奈津子 うん、ずっとそのめんどくさい人の相手してた。

室井 なつちゃん！

丈 また、なつちゃんのお尻さわりに来たんやな

室井 今日のなつちゃんも、ええケツしてたで。

奈津子、お盆をふりあげる。

室井 堪忍、堪忍、もうしません。

奈津子 ほんまにもう：

丈 土産もん屋の女の子も怒ってたで。

室井 なんてバレルんやろなあ：

奈津子 当たり前や！

丈 おつちゃん、なつちゃんのお尻は年の分だけ高つくから、

やめときや。

奈津子 丈！

奈津子、丈にタオルとTシャツを投げつける。

丈 あゝ、扇風機片づけんでほんま正解やったわ。(Tシャツを着る)

室井 お前ひとり真夏みたいやな、もう十月やぞ。

丈 肉体労働はいつでも真夏よ。

奈津子 手伝いの子らは？

丈 今日は外で食べるって。

奈津子 え、せっかく用意したのにく。

丈 なっちゃんの飯食うてると、まっずい給食思い出すんやと。

奈津子 それ私のせい？

室井 出た給食のおばちゃん。

奈津子 おっさんに「おばちゃん」言われたないわ。

丈 給食のおばちゃんは給食のおばちゃんやろ、ほかになんか言い方あるん。

奈津子 うーん、給食婦、とか。

室井 「婦」てなんや。

奈津子 婦人の「婦」。

丈 「婦」って、おばちゃんて意味やろ。

奈津子 あほ！ちがうわ。何歳から給食作ってたと思うんよ。

丈 女が「婦」やったら、男やったらなんやろな；給食；紳士？

奈津子 なんで紳士やねん。

丈 婦人服、紳士服いうやろ。

奈津子 下だけとつたらええんとちがう？「士」だけとつて、

給食士。

丈 オツ、それかっこいいね。でも、給食のおっさんって聞いたことないけどな。

奈津子 まあ、女ばっかりの職場やからね。

室井 なっちゃんが給食の仕事はじめたん、何年前やったかな

あ。

奈津子 震災があった年の暮れやから、二十年前。

丈 てことは：

奈津子 三十三歳。

丈 今の俺より若かったんか。

奈津子 そうよう。

室井 おばちゃん：

奈津子 (キツと) なに。

室井 いや；女の三十三歳はおばちゃんか否か；

奈津子 違うでしよう。三十三歳でおばちゃんやったら、人

生のほとんどがおばちゃんやないの。

丈 ほとんどって：

奈津子 だいたい三分の二くらいよ。

丈 なっちゃん、何歳まで生きるつもりやねん；

室井 長生きするでえ、なっちゃんは。丈、覚悟しとけや。

奈津子 ほつといて、丈なんかの世話にならんし。

丈 丈なんかて。

奈津子 だいたいね、世の中のおっさんは女性のことをおば

ちゃんおばちゃんて言い過ぎやねん。

室井 わかったわかった。

丈 なっちゃん、めし。

奈津子 何玉？

丈 え、またうどん？

奈津子 二玉でええね。

奈津子、台所へ去る。

丈 なっちゃん、二玉もいらんで！

奈津子(声) 一玉半でええか！

丈 それでええよ！

室井 女っちゅーんは；(めんどくさい)

丈；(扇風機を消す)

室井 二十年；お前、今年でなんぼになる。

丈 三十五。

室井 中学生やったか：確か。

丈 あの時？

室井 ああ。

丈 十五歳、中三。

室井 忘れていくもんやなあ：三十三歳と、十五歳か：

丈：

室井 大将、調子は。

丈 ちよつとやばいなあ：最近俺の事、兄貴と間違えたりするようになって。耳も遠いし：

室井 足のほうは。

丈 (二階を見て) 昔はな、こうして肩で支えて降ろしてきたんやけど、今はもう、抱きかかえて：、まあ、親父軽いしな

：筋肉って、使わへんとだんだん衰えてくるらしいわ：

室井 十五年も寝たきりになるやなんて、大将も思わへんかったやろなあ：

丈 木登り上手いのが自慢やったからな。

室井 ビックリしたなあ：あの時は：。地震で助かったのに、

木から落ちてこんなことになるやなんてな：

丈 俺も、すぐ起き上がってくると思ったけど：

ブザーが鳴る。

室井 ベッド、一階に降ろしてきたらどや：

丈 俺が寝てるんも二階やし、夜中になんかあったら：：それに、ここで親父がずっと寝てるんも：

再びブザーが鳴る。

奈津子(声) 丈、行ってきて！

丈 もう：

丈、二階にあがる。

奈津子、うどんを持って来る。

室井 大変やな。

奈津子 階段がしんどいだけで、起き上がったりは割と出来るんよ。トイレも自分でいけるし。でも、最近寂しいみたいで、ちよつとしたことで呼びつけたりもするん：それも、ム

ラがあるんやけどね：

室井 なつちゃん、それでやめたんやろ、給食の：

奈津子 (給食の：に反応して室井を睨みつける)

室井 いや、まあ、大変やな。姫田家も。

丈、降りてくる。

丈 お茶のおかわりやって。

奈津子 またあ。

丈 あの人、まだおるんやな：えつと：

奈津子 笹倉さん。

丈 ああ、そう、笹倉さん。

奈津子 かれこれ二時間？

丈 玄関に女物の靴、まだあったから、アレツ：と思ったけど

ブザーが鳴る。

奈津子 はいはい、今行きますよ。(丈に) うどん、出来てるから。

奈津子、ヤカンを持って二階へあがる。

丈 (うどんを見て) げ。

室井 なに。

丈 またかいな。

室井 だからなに。

丈 レモンうどん…

室井 ほんまや。輪切りが…うわ…びたーつと敷きつめてあつてうどんが見えへんな…

丈 くっそお。

丈、うどんをずるずる食べる。

室井、『斜陽』のページをめくる。

奈津子、ヤカンを持って降りてくる。

奈津子 お気に入りみたいやねえ…笹倉さんの事（丈を見て）

…ちよつと、なにその食べ方。

丈 なんやねん。

奈津子 何回も言うてるやないの、うどんとかおそばはね、麵を食べて…汁をすすす…麵を食べて…汁をすすす…

室井 呼吸法みたいやな。

奈津子 そうしてちよつとずつお腹を馴らしていくの、丈みたいにいっぺんに食べてたら、めちやくちや消化に悪いねん。

だからお腹ばーっかり下すんよ。

丈 なっちゃん…

奈津子 なによ。

丈 これ、何玉入ってる。

奈津子 三玉やけど。

丈 一玉半て言うたやないか。

奈津子 せやかて、手伝いの子らの分も買ってきたから余つてまうし。

丈 食べても食べてもなくならんへん…

奈津子 おやつ分まで食べたと思たらええやないの。

丈 俺の消化が悪いんは絶対なっちゃんやんのせいや。

奈津子 人のせいばかりせんといて。

丈 レモンうどんはやめてつて、あれだけ言うたのに

奈津子 せやかて、きつね売り切れててんもん。

丈 あいつら、絶対察知して逃げたんや…今日がレモンうどんやというのを…

室井 そんなにまずいんかそれ。

奈津子 美味しいです！

丈 レモンそうめんのうちはまだマシやつたんやけど…

奈津子 すだちうどんであるやないの、あれから発想してん。

丈 まあ、ただのパクリやねんけど…

奈津子 悪い!!

丈 そもそもこの季節に出来るレモンはグリーンレモンやろ、

若くて香りの強いのが特徴やさかい、なっちゃんみたいにこ

れでもかーつてふんだんに使われるとやね、レモン味しかせ

えへんちゆうか…レモン畑から帰つて来て、さありフレッシ

ユするぞーつていう気持ちだが、根こそぎ奪い取られるような

…

奈津子 あんた、レモンに対する愛情が欠けてるんとちがう？

レモン農家のくせに…

丈 だからこの季節一日中レモン収穫して、レモンうどんまで

食べるんは、ちよつとね…つて、言うてんの。

奈津子 だからきつね売り切れてたつて言うたでしょう…（泣く）

丈 なんで…（泣くの）もう！

室井 なっちゃん！

丈 わかったよ…

丈、再びうどんをずるずる。

奈津子 …食べ方！

丈 …（汁をすすり…麵を食べる…汁をすすり…麵を…）

奈津子 血よ…

室井 え。

奈津子 血筋。さっきのうどんの食べ方。姫田の血やないんよ。

お義兄さんといっしょ。あつちのほうの実家の血よ…私もお

姉ちゃんも、あんなうどんの食べ方しなかった…

丈 (麵を食べ…汁をすすする…)

室井 …

奈津子 室井さんも食べる？レモンうどん。

室井 いや…俺はいいわ…

奈津子 …作ってくる。

奈津子、台所に行く。

室井 ちよっ…いらんって…!

室井、奈津子を追いかけて台所へ。

二階から、日登美が降りてくる。実は途中まで来ていたが、顔を出しにくかったらしい。

日登美 あの…

丈 ああ、終わったんですか、話。

日登美 ええ…

丈 親父は。

日登美 疲れて、お休みに…。すみません、こんな時間まで…
丈 そこで、待っててください。なっちゃんも、すぐ戻りますから。

日登美 なっちゃん…(くすつと笑う)

丈 …え。

日登美 仲がよろしいんですね。実の叔母さんのこと、そんな風に…

丈 変ですか…？変ですよね…ハハ…でも、奈津子おばさん…
とか、奈津子おばちゃん…て呼んだら、異様に怒りよるんですわ、昔から…ハハ…ま、お茶でも…

日登美、椅子に座る。感じの良い微笑。

丈、麦茶を入れるが、

日登美 いえ、もう十分…

丈 お腹タプタプですか…(笑う)

日登美 人と一緒に飲むお茶って、美味しくて。つい…

丈 レモンの話、し出したら止まらへんでしょ。

日登美 ええ、でも、とても参考になりました。

丈 親父も、笹倉さんみたいな人に話を聞いてもらったら、うれいんですね、格別。

日登美 私みたいな…

丈 インテリ。

日登美 そんな…

丈 だって、作家なんですよ。

日登美 ただのフリーライターです。

丈 でも、こちらの人は कोरोなんて知らへんから十分。

日登美 回顧展を東京でやりましたから。紹介記事を書いただけで。

丈 うれしかったなあ。今朝は。

日登美 え。

丈 カミーユ・ कोरोの絵に似ていますね…って。

日登美 ああ、奈津子さんの肖像画ですね。他の絵も、なんとなく光の感じが…

日登美、子どもたちの絵も手に取りつつ、

日登美 かわいいですね。

丈 近所の小学校に教えに行ってるんですわ。課外授業っていうんですか、田舎なもんで教員不足で…

日登美 風景画ばかりなんですわ。

丈 海が近くて、光が美しいですから。僕も最初は風景画専門やっただけ…

日登美 コローの描く風景画も、独特の光が特徴ですよ。

丈 憧れて真似しているうちに、人物画にも惹かれて…

日登美 そうですか。

丈 これが、なかなか描きあがらなくて。もう三年くらい取り組んでいます。

日登美 同じ絵をですか。

丈 重ねても重ねても、違うんですわ。色も：光も：なにもかも：

日登美 どのような絵を、お描きになりたいんですか？

丈 俺はね：自分の絵に、明白な主題を持ちたくないんです。

日登美 へえ：

丈 だからかな：いつまでも探してしまっんです。モデルが持つ、ありのままの姿を：

日登美 丈さんは、背景や小道具は描かないんですか。

丈 それは：考えたことがなかったな：

日登美 コローは音楽との調和を目指した画家です。人物画には、楽器を持った女性がよく登場します。何か、奈津子さんと調和する小道具を持たせてみたらどうでしょうか。たとえば：

日登美、果物かこのレモンを取り上げ、丈に手渡す。

丈：

うどんを持って奈津子が現れる。

室井、後を追って、

室井 だからなっちゃん、うどんは今度でいいから：

丈 あ、調和にはほど遠い人たちが：

奈津子 (日登美に気付いて) あら、お話すみはったん？

室井 もしかして、この方が。

奈津子 ああ、そやったわ。笹倉さん：この方、室井さん。

室井 (日登美に) はじめまして：わたくし室井秀文と申しまして、七風村の農業組合長をしております。実は、この姫田

果樹農園の元従業員でして：(名刺を渡す)

日登美 (受け取り)：ああ：そうですか：

丈 おっちゃん、笹倉さんに用事やったんか。

奈津子 そうやねん、朝からずっと待ってはって：

日登美 それは：大変申し訳ない事を：

室井 いや、いや。私もいわゆるアポなしでまいりましたさかい、気にせんとってください。これ、お土産です。

室井、菓子箱を差し出す。

室井 七風レモンフィンアン：(菓子箱に書かれた名前を読む) とするが、老眼で見えにくいらしく) ええと：

奈津子 シェ。

室井 シェー？

奈津子 フィナン、シェ。

室井 そう、フィンアン、シェ。最近は「七風レモン」を使ったおみやげも、色々開発してるんですわ。

日登美 (菓子を受け取り)：恐れ入ります。(名刺を渡す) あらためまして、私、笹倉日登美と申します。本当に、お待ちせしてしまつて：

丈 まあ、ここにはしよっちゅう来るし：

奈津子 一緒に暮らしてた期間が長いですさかい、家族みたいななもんですねん。

丈 震災より、随分前ですけど。

室井 外に古い平屋の建物がありましたやろ、そこが昔は従業員宿舎でして。今はこのなっちゃん：奈津子さんが住んでます：

奈津子 父の代までは、手広うやつてましてん。

日登美 お父様、というと：

奈津子 譲さんは婿養子ですから、姉と結婚して：見合いです。

室井 せやから、この次女の奈津子さんがもともとこの姫田家のお嬢さんなんです。

日登美 では、安芸子さんの妹さん：
丈 安芸子は、俺のおかんです。せやから、なっちゃんは、母方の叔母になります。

日登美 姫田さん、私のこと、時々間違えて、安芸子って：

奈津子 そういえば、笹倉さん、年の頃がちょうどお姉ちゃんが亡くなった時くらい感じ：髪長さも、こんなんやっただし：

丈 そうかなあ：笹倉さんのほうがずっと美人やけど：

奈津子：

室井 それで、「姫田譲物語」はいつ出版されるんですか。

日登美 出版やなんて：

室井 作家の方が、「七風レモン」の取材に来たいうんで、村のほうもこれは積極的に応援せなアカンと：

日登美 阪神・淡路大震災二十周年は逃してしまいましたけど、できる限り早く出版したいと思ってます：どんな形になるかはわかりませんけれど：

室井 実は来年、この七風村で二十一年目のメモリアルイベントがありますね：県知事も来るんですわ。

日登美 ああ：丈さんに少し伺いました。

奈津子 室井さん、そこでスピーチしますねん。

日登美 へえ：

室井 まあ、それもレモンの関係なんですけど：ご存じやと思えますけど、地震の時にあんなことがありましたやろ。それで、もともと作ってた玉葱が流通ストッパになって：再開しても、ニュースやらなんやらで、もう誰も買わんようになって：その時、組合長やっただこの大将が、レモン作りを提案しはったんです：

日登美 (外を見て) それが、ここまでの大農園に：

丈 向こうのほうに見えるんは、隣の佐々木農園ですけど。ここら一帯、レモンばかり作ってますん。

日登美 素晴らしいですね。

丈：

奈津子 室井さん、笹倉さんにお話、あるんでしょ。

日登美 なんでしよう。

室井 メモリアルイベントのことで、ちよっと。

奈津子 せやから、二人でレモンうどん食べて、そこで相談しはったらええんやないの。ちよどどん、余ってるし。

丈 シツ、なっちゃん！

奈津子 あ、別に残りも片づけて欲しいんやないのよ。

日登美 せつかくなんですけれども、仕事で今日中に東京に帰らないといけなくて：

室井 ほな、私が車で送りますわ。バスですか。

日登美 ええ、高速バスで神戸まで。

室井 ほな、車の中でも、相談さしてもらったら：そや、その海沿いの道、ぐるっと回っていきましょか：

日登美 いいんですか。

室井 ここいらは、海もきれいなんです：(窓を開けて) ほら：見えますでしょ。

日登美 ああ：私も大好きです。あの景色。

奈津子 あら、はじめてやないんですね。

日登美 取材で、何度か：

丈 笹倉さん、ほんま熱心やな。

日登美 普通ですよ。普通。

室井 軽トラですけど、よろしいか。

日登美 もちろん。

奈津子 残念やわあ：次来たら絶対食べてちよどいね。

日登美 ありがとうございます：また、伺います：

室井 (小声で日登美に) ここは、食事の作法に厳しいんです、やめといたほうがよろしいで：

日登美 作法？うどんにですか：

室井、日登美、出ていく。

奈津子 (手を振り) お尻に気をつけてー！

丈 もう聞こえてへんて。

奈津子 スピーチ原稿の相談やって。ほんまかしら。

丈 笹倉さんのお尻触るんは、難しそうやなあ：

奈津子 …あ、忘れてはる。

机に、『斜陽』が置いてあった。

丈 なに。

奈津子 ええスピーチをするには、文学を読まなアカンのやつて。(渡す)

丈 『斜陽』…ふうん：

丈、うどんを食べ終わると、部屋の隅にあるイーゼルと油絵具を一式持つて来て、セッティングをはじめ。

奈津子 ちょっとあんた、ちゃんと全部食べたん？

丈 食べた食べた、耳からうどんが出てきそうやわ。ごちそうさまでした。

奈津子 そ、よろしゅうおあがり。

奈津子、食器を片づけ、テーブルを拭く。

丈 その、「よろしゅうおあがり」言うのん、なっちゃんだけやな。

奈津子 そう？

丈 いままで、よそで聞いたことない。

奈津子 姫田家は「よろしゅうおあがり」、必ずいうのよ。

丈 おかんも、そうやったかなあ：

奈津子 …。譲さん、寝てはるかしら。

丈 二階、えらい静かやな。

奈津子 どうしよ、お昼。

丈 ブザー鳴ったらでええんちゃう。

奈津子 そやね。

丈、セッティングを終え、

丈 ねえ、座って。

奈津子 あんた、食べ終わったばかりやないの。

丈 これが俺のリラックスタイムやねん。ささやかな休息。お願い。

奈津子 もう。

奈津子、椅子に腰かけて夢想するようなポーズをとる。
丈、色を作って絵を描きはじめる。

奈津子 こういうのって、服装とか、髪型とか、同じやないと

描かれへんのと違うん。

丈 そういう人も、おるかな。

奈津子 丈はちがうの。

丈 俺は…必ずしも、写実を求めてへんし。

奈津子 やめてよ…ピカソみたいに描くのん。

丈 (笑う) 俺は、なっちゃんの内側から出て来るもんを写し取りたいだけや。

奈津子 なんやようわからんわ。

丈 …

奈津子 ねえ。

丈 うん？

奈津子 土手の修理って、一人で出来へんのん？

丈 日当、二人分も払うの勿体ないか？

奈津子 そやのうて。

丈 一人やと、何日もかかってまうし。

奈津子 あの北の斜面には、あんまりよその人、入れたないねん。

丈 あそこからはちよつと離れてるやろ。

奈津子 でも…

丈 気にしすぎやで。

奈津子 あんたはよう知らんから、そんなこと言えるんやわ。

丈 薬物缶やる、知つとるわ。昔、日本軍がポイ捨てしたやつ。

奈津子 ポイ捨てて、空き缶みたいに。ドラム缶サイズやで。

丈 表現としては間違うてないで。せやなかつたら、なんであ

んなどこに埋めるねん。

奈津子 戦争の時に作ったんよ。何の毒が入ってるかわからへ

んのよ。

丈 でも、地震の時にあるやつは全部撤去したんやろ。仮に残

つてたとしても、そんな昔の毒、もう空っぽやつて。

奈津子 せやかて、まわりの木が吸い上げてるかもしれへんや

んか。

丈 まさか。

奈津子 あんた、覚えてへんのん…

丈 なに。

奈津子 私があそこで、茜ちゃんとおにぎり食べた後、つまよ

うじのかわりに生えてた木の枝で、こう、歯をシーシーした

ら、唇が腫れてタラコみたいになった事件。

丈 虫に刺されたんやろ。

奈津子 ご近所には、そういう事にしたのよ。お義兄さんにき

つう言われて…

丈 俺も、そう思ってたわ…

奈津子 あのあと、熱が下がらんようになって大変やってんか

ら。茜ちゃんも、その顔見て泣いて泣いて…

丈 その時の唇、覚えてないのが残念やな。

奈津子 丈も茜ちゃんも、まだ小さかったからなあ…

丈 …

奈津子 茜ちゃん、今頃どないしてるんやろ。

丈 便りのないのは元気な証拠、いうやろ。

奈津子 やっぱり私の事、避けてるんかな。

丈 なっちゃんは何でも気にしすぎやねんで。

奈津子 でも、やっぱりあの斜面は…

丈 今更そんな事蒸し返しとつたら、レモンなんか作られへん

で。

奈津子 …

丈 心配せんでええって、作業も今日で終わるし。

丈、奈津子に近づくと、束ねていた髪をほどく。

奈津子を見て、

丈 やっぱり、こっちのほうがええな。

奈津子 髪、切ろうかな。暑いし。

丈 あかんよ、描きあがるまでは。

奈津子 …

二人の間に親密な空気が流れるが、奈津子は何かに気付

いたように急に立ち上がると窓の外を見る。

丈 なに…

奈津子 車の音が…

奈津子、窓を閉めるとテーブルを拭きはじめる。

丈 …まだ途中やけど。

奈津子 昼間は集中できへん。

丈 えーっ…

奈津子、食器を持って台所に行こうとする。

丈 待って、一分待って、コーヒー淹れてくる。

奈津子 …

丈 休憩後、再開ね。

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈 …

丈、奈津子から食器を奪うと、台所へ行く。
奈津子一人になり、絵をしみじみと見つめる。
そこへ、ポストンバックを下げた咲が現れる。

咲 なっちゃん…！
奈津子 え…咲ちゃん？…ええーっ？！
咲 ひさしぶり。
奈津子 じゃないしたん、一人？
咲 まさか。お父さん、いま車停めてる。
奈津子 亨が…？来てんの？
咲 うん。
奈津子 うわ…もしかして私より背え高なってる？
咲 ぼちぼち。
奈津子 怖いわねえ…時間の経つのは…
咲 …この絵、もしかしてなっちゃん？
奈津子 …丈おじさんが描いてん。
咲 へえ…丈さん、絵なんか描くんや。
奈津子 丈は、芸大志望やったからね…
咲 ああ、そっか…
奈津子 お父さんから聞いた？
咲 ううん、お母さんから。
奈津子 お母さん…
咲 安心して、清と留守番してるから。なっちゃん、お母さん
苦手やろ。
奈津子 そんな…
咲 フフフ。お母さん、虫嫌いやから、ど田舎には絶対来ない
よ。
奈津子 ど田舎…
咲 この絵、美人やね…
奈津子 内面を写し取ってるだけらしいけど…
咲 ふうん…

コーヒーを持って丈が現れる。

丈 …あれ？…あれ？
咲 おっす、丈さん。
丈 (コーヒーを置いて) うわー、なんで咲ちゃんまで。
咲 お父さんの見張り番。
丈 え？
奈津子 いま車停めてるって、亨さん。
ブザーが鳴る。
奈津子 ああ、こんな時に。
咲 おじいちゃん？…私、行ってくる。
咲、二階へ駆け上がる。
奈津子 あ、咲ちゃん…
丈 …
奈津子 あんたが、呼んだん…？
亨が入ってくる。
亨 大丈夫。
丈・奈津子 …。
ブザーが再び鳴る。
溶解。

2

八時間ほど過ぎて…

夜。

夕食が終わり、奈津子が香取線香を交換している。

奈津子 (鼻歌まじりに) ブーンブン、ブーンブン。

奈津子、閉じた窓の外を見る。

奈津子 あー、やっぱり降りそうかなあ：

外を見ていた奈津子、何か見つけた様子で凍りつく。

亨が入ってくる。

泊まる予定なのか、昼よりもリラックスした半袖姿。

亨 なっちゃん。

奈津子 わああああ！

亨 なんやねん。

奈津子 亨かあ：ビックリしたあ：

亨 ビックリしたんはこっちやがな。

奈津子 あんな、なんか外で黒いモンがササササッと、横切
っていったんよ。

亨 動物か？

奈津子 そんなんちやうわ：泥棒とちやうやろか。

亨 盗るモンなんか、なんにもないやろ。

奈津子 レモン泥棒とか：

亨 くさるほどあるねんから、持って行ってもろたらエエやろ。

奈津子 そやな：泥棒やったらエエけど、幽霊やったらどない

しよ：

亨 あほか。それより、なっちゃんゴルフボールなかったか。

奈津子 え？

亨 あったよな、親父の。

亨、二階へあがってゆく。

奈津子 待つて：！

奈津子、追いかける。

しばし無人。

亨、奈津子、降りてきて、そのまま出ていく。

再び無人になった部屋に、黒づくめの洋服を着た女が現
れる。

茜である。

茜：

ブザーが鳴る。

茜、二階へ行く。

そこへ、丈、室井が入ってくる。

室井 斜面いうたら、あの北の斜面かいな：

丈 まあ、あそこは傾斜もゆるやかやし、道路に面してるから、
もともと売りやすい土地ではあったんやけど：

丈、無人なので：

丈 あれ：(二階に呼びかける) なっちゃん！どこ行ったんや
ろ。

室井 離れちやうか。電気点いてたし。

丈：

室井 佐々木のおっさんが、お前に言うてきたちゆうたな。

丈 うん：不動産屋が直接もちかけてきたらしいんや、それで

室井： おおかた自分で売り込んだんやろ、親父さん急に亡くな

って、「相続税払われへん」て、困ってたからな…

丈 でも、うちにとっても悪い話やないし…

室井 こんな田舎に、建売が建つ時代になるとはなあ…何軒くらい出来るんやろ。

丈 佐々木農園の土地とあわして、十二、三軒。

室井 ハハ…うさぎ小屋とはよう言うたもんやな。

丈 おっちゃん、この家もうさぎ小屋みたいなもんやで。

室井 生活、苦しいんか…

丈 …

室井 なっちゃんも、給食のおばちゃんやめたしな…

丈 俺には、この農園はでかすぎるよ…

室井 手伝いの人間やったら、なんぼでも紹介するがな。

丈 毎日日当払てたら、いくらも残らへんよ、手許には…それに…

室井 「七風レモン」はブランド果実のさきがけや。俺ら、村の人間はその恩恵にあずかってやってきたし、勢いも衰えて

へん…レモンせんべい、レモンフィナンシェ、レモンゼリー…

…みんな、村の若い連中が考えて、いまは島全体のみやげも

んになつて…姫田果樹農園が、レモン畑を売るいうたら、

それは…なんというか…やりきれないよ、俺たちは。

丈 レモンせんべい、レモンフィナンシェ、レモンゼリー…

室井 なんや…

丈 別に…

室井 別にやないやろ…その言い方。

丈 俺、今日土手の修理してたんや…

室井 ああ…台風で崩れた…

丈 それで、二人来てもろて…

室井 同級生やろ。

丈 …前からずっと崩れかけてたんや、そんな場所がようけあ

って、あの土手は、そのなかでも面積が広くて…せやから、

三人はおらなあかんなど思ってたんやけど…

ふだんは独りや。土手が崩れるんは、台風だけのせいやなく

て、ザリガニとか、モグラのせいでもあるんやけど、そんな

土手の修理なんかしてるやろ…そしたらな…ハハ…モグラが

ホンマに、時々出てきたりするんやで…昔、小学校の時、モ

グラをつかまえて学校に持っていったことがあったわ…でも

な、次の日には死んどった…モグラちゆうんは、胃袋のなか

に食べ物半日以上入ってへんと餓死してしまうんやて…そ

んなことも知らんと…それで、モグラに会うたびにそんなこ

と思いつ出すやろ、ああ、こいつは必死に死なんように食べ物

を探して探して、土手を壊してしまふんやなあ…なんて考え

てるうちに、夕方になって…日がな一日、汗かきながら…な

あ、おっちゃん。俺もこのモグラみたいやと思わへんか？

室井 …

丈 そうやって…目の前のことだけ考えて、これまでなんとか

生きて来たんや。たぶん、これからも…それだけや。

室井 …お前は健全な人間なんやと、俺だけは思ってるよ。

丈 俺だけは…って。

室井 冗談も言えるし、口下手でもない、身ぎれいにしてるし

…愛嬌もある…

丈 ベた褒めやな、気色悪い…

室井 集会、ちゃんと来んか。

丈 いつてるって。

室井 もっとちゃんと。

丈 だからいつてるって。

室井 ちゃんとしてるっていうのは、ただじーっと座ってることでも、

時々鼻くそほじったりしてることもなくて…

丈 おっちゃん、よう見てるな(笑う)

室井 ちやかすな。

丈 ちやかさんよ。

室井 ちゃんとしてるっていうのは、終わった後の飲み会もつ

いて来るとか、みんなでバーベキューに行くとか、そういう

ことやがな、それが人づきあいちゆうもんやろ…

丈 おっちゃんかて知ってるやろ、俺は親父が二階で寝てるん

やから…

室井 なっちゃんがおるやろ…

丈 だから、なっちゃんのほうが心配なんや。

室井 お前…

丈 なんや。

室井 なっちゃんと、離れたらどやねん。

丈 離れて、どないして暮らしていくねん。

室井 なっちゃんがか…お前がか？

丈 おっちゃんも、疑うてるんか。

室井 昔の噂か、あほらしい…

丈 みんな、言わへんだけや。

室井 お前も悪いんや。絵にかこつけて、なっちゃんにべたべ

たさわったりして。

丈 見たようなことを…

室井 俺の趣味は覗きと女性のお尻を触る事や。

丈 威張るなよ。

室井 俺だけやない、色んな人間が見とるんじや。お前もな、

一人に執着せんと、俺みたいにいるんなお尻を触ってたら、

ややこしいこと言われへんのじや。

丈 最低やな。

室井 丈、嫁さんもらえよ…

丈 しようもな。

室井 一人で洲本の風俗通うくらいやったら…

丈 嫁さんと、風俗は、別やろ。俺かて、男やし。

室井 …。俺も、いっぺん連れていけ。

丈 あほか。

室井 …

室井、何と言葉を繋げていいかわからず、絵を見て、

室井 あの絵、いつ仕上がるんや。

丈 わからへんよ…俺にも…

間。

丈 ごめん、ちよつと二階見てくる。

室井 え。

丈、二階へあがる。

室井、しばし一人で絵を見ている。

二階から茜が降りてくる。

茜 どうも…

室井 どうも…

茜 …

室井 どちらさんですか…

茜 …

室井 えつと…誰か、呼んできましょか…

茜 姫田亨…いるの。

室井 たぶん、おると思いますが…今日は、どんなご用事で？

茜 そっちは…？

室井 なんや、相談事があるらしくて…こう見えて、姫田家の

ご意見番なもんで。

茜 …

室井 あ、良かったらそこ掛けてください。

茜 帰ります…

室井 あ、え…

茜、出ていく。

室井 …

丈、降りてくる。

室井 おい。二階からさつき、若い女が降りてきたけど、あれ誰や？

丈 若い女…？知らんで。

室井 なんや、会わへんかったんか？

亨が入ってくる。

亨 傾いてる。

室井 え。

亨 あれは完全に傾いてる…

室井 なんのこっちゃ。

亨 離れや

室井 ああ…

亨、蚊に刺されたのだろうか、腕を掻く。
丈、降りてくる。

丈 兄ちゃん…なっちゃん知らんか？

亨 なっちゃんやったら、離れで咲と話してる。

丈 もう…（一言いってくれよ）

室井 それよりな、さつき女の人が「亨はおらんか」いうて、たんねてきはったで。

亨 え…

室井 なんか、なれた感じで二階から降りてきはってな。真っ

黒い服着た、ぶつきらぼうな姉ちゃんやったで。

亨 それで、どこへ行ったんや。

室井 「帰ります」言うて、急に出て行ったわ。あらあ、訳ありやな。

亨 …丈、ムヒないか、外歩いてきたら蚊に刺されたわ。

丈 夜に半袖なんか着てブラブラ歩くからやろ。

室井 おい、誰やねん。久しぶりに帰って来た思たら。

亨 …昔なじみや。余計な詮索すなや。

室井 いやらしいのおろ。
亨 なに想像しとんねん…

丈、亨にムヒ（液体）を渡す。
亨、それを塗る。

丈 そや、兄ちゃん。親父がゴルフボールは納屋にあるって言うてたで…なんや、ゴルフボールで。

亨 離れが傾いてる気がしたから、確かめよう思て。

丈 は？

亨 なっちゃん、なんも言うてへんかったんか。

丈 雨漏りがひどいとか…

亨 まあ、わかりにくいけど…車にサッカーボール積んでたから、試しに廊下に置いてみたら、コロコロ転がっていきよつたわ…

丈 …

亨 確かに、あそこにつまでも住んでるんはな…

室井 …（急に膝を打ち）ああ、そうか！

亨 なんやおっちゃん、ビックリするなあ。

室井 （丈に）お前、嫁さんなんかいらんいうて…実はちゃん

と考えてたんやな…

丈 なんのこっちゃ…

室井 大丈夫やって、心配せんでもなっちゃんもわかってくれる。

亨 丈。お前、嫁さんもらうんか。

丈 あらへんわ、そんな予定。

室井 レモン畑、売った金でなっちゃんに自立してもらおうや

ろ。考えてみたら、おやっさん死んで相続放棄したときに殆どもろてへんし…確かに、ええ機会かもしれへん。

亨 …

丈 …

亨 おっちゃん。

室井 …ん？

亨 悪いけど今日はもう帰ってくれへんか。

丈 兄ちゃん。

亨 弟が呼んだみたいやけど、俺ら二人、まだぜんぜん相談出来てへんねん。やっぱり、兄弟二人で…

室井 なんやお前ら、まだなんも話しおうてへんかったんか。

亨 仕事中に、電話がかかってきただけや…

室井 そうか…

亨 言いくいけど、金の話やしな。

室井 ハハハ…

亨 それでええか、丈。

丈 …すまん、おっちゃん。

室井 俺が入ったほうがええ時は、いつでも呼んでくれや。なんといいっても姫田家のご意見番やさいかいな。…ああ、そや…

…(名刺を見せて) 亨、この人知ってるか…

亨 笹倉日登美…

室井 フリーライターやて。

丈 七風レモンの取材で、東京から。

亨 フリーライターなんか、掃いて捨てるほどおるからなあ…

室井 そんなもんか。

丈 そういえばおっちゃん…これ、忘れてたやろ。

丈、テーブルの隅に置いてあった『斜陽』を室井に渡す。

室井 おおお、ここにあったんかあ。探してたんや。

丈 ほんまか。

亨 なんやそれ。

室井 『斜陽』や。

亨 おっちゃん、いつのまに本なんか読むようになったんや。

室井 ええスピーチをするためには、文学を読まなアカン。

亨 ハア…？

丈 来年のメモリアルイベントでスピーチするんやて。

亨 へえ。

室井 笹倉さんにも言われたわ：「スピーチのために『斜陽』を読む、素晴らしいです。ぜひ、いろいろな文学を読まれてから、原稿を書いてください」…って。

丈 テキト…

室井 亨は、来るんか？

亨 今はもう農政課やないからな、関係ないよ。

室井 まあ、俺のスピーチだけでも聞きにきてくれよ。

亨 考えとくわ。

室井 ほな、なっちゃんによろしゅういうといて。

亨 おやすみ。

丈 また。

室井、出ようとしてドアを開け、

室井 (丈に) 傘、貸してくれんか…

丈 そのビニール傘、持ってって。

室井、降りだした雨の中を出ていく。

亨 …なんで室井のおっちゃんなんか呼んだんや…余計話がや

やこしなるやないか…ボケが。

丈 …

亨 味方してくれると思ったんやろ？二対一にする魂胆やな。

丈 …

亨 凶星やな。ドアホ、あの北の斜面がどんな場所かわかって

て売ろうとしてるんか…

丈 …なんともないんやろ、今はあの場所も。

亨 なんともなくしたのは俺や。わかってんのんか。もういつ

かい調査が入りそうになった時、道路課にいた俺がやめさせ

たからやろ…

丈 調査したらよかったんや、それでシロやって、ハッキリさ

せたらよかつたんや…

亨…

丈 震災の後、あの腐ったドラム缶、ぜんぶ掘り出して処分したんやろ。県の職員が説明に来たやないか…親父のところにて何をいまさら自分の土地のことでビクビクせなあかんねん。

亨 でも、もし残ってたとしたら…?

丈 お墨付きが出たから、レモンを植えたんやろ?

亨 俺はまだ、安心してへん。

丈 それやったら、ここに住んで俺らなんやねん。

亨 レモン育ててるぶんには、影響ないやろ。でも、その上に人が住むつちゅうのは…

丈 フフフ…

亨 何がおかしいねん。

丈 建売が出来たら、どんな家族が越してくるんやろうな。きっと、兄ちゃんらみたいいな4人家族や…なんにも知らんと、

そんな家族がぎょうさん…もし、毒ガスが埋まってるとしたら、そんな土地の上に住むんやで…

亨 お前には、責任感ちゅうもんがないんか。

丈 責任?

亨 そうや。

丈 一体、何が俺の責任なんや?人の土地にポイ捨てしたやつには責任ないんか?まだ埋まってるかもしれへんのに、もう

大丈夫やって、言うたやつには責任ないんか?そんな宙ぶらりんの責任、なんで俺が負わなアカンねん。

亨 その時は、ただの畑やったんや。深く掘り起こしてもし何かあつたら…

丈 …兄ちゃん。

亨…

丈 兄ちゃんは…ほんまに、まだ残ってると思うんか。

亨 県の職員はだいたい二、三年毎に異動する…長くても五年。そのたびに、異動した課で当時の資料を探してまうんや…広

報課…農政課…道路課…見つけるたびに不安になる…それで

更に調べてみる…それでまた不安になる…もうやめよう、もうやめようと思うんやけどな…

丈…

亨 役所に入ってから、すっかり疑り深い人間になってしまったわ…

丈 俺が勝手にレモン畑売ってしまわへんか心配で、飛んできたんか。

亨 そうかもな。

丈 土地の名義はまだ、ぜんぶ親父のままや。次男の俺が、勝手に売ったりできへんよ。茜からも返事、けえへんし。

亨 …あんな、さつき、室井のおつちやんが言うてた若い女。あれ、茜や。

丈 え…

亨 俺が連絡したんや、今日の夜相談するから、お前も来い言うてな。

丈 なんて帰つたんや…

亨 室井のおつちやんが立ち会うのわかって、帰りよつたんやろ。そういう奴やで…

丈 興味あつたんやな。

亨 あいつ、いろんな意味であの北の斜面に執着してたさかいな。

丈 いろんな意味ってなんや。

亨 異様に怖がつてたやろ、あの場所。震災以降は余計にひどなつて…それも、家出た理由のひとつのような気が、俺はしてるんやけどな。

丈…

亨 (亨、机の上のレモンを見て)…なあ、お前、おかしくならへんか?こんな沢山のレモンに囲まれて…俺はね、いつもこのレモン畑を登ってくるたびに、気が変になりそうになるよ…あの北の斜面のことを考えるより、むしろね…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

丈…

亨、蚊に刺された腕を掻く。

亨 くそ…なんでこんな痒いんや…田舎の蚊っちゆうんは…
丈 …兄ちゃん。

丈 それ、さつきと別のとこ搔いてへんか。

亨 うわ…もしかして、また噛まれたんか俺…ちくしよ…ムヒ、
ムヒ！（ムヒを塗る）…蚊のやつめ…俺の血いばっかり吸い
やがって…

丈 都会の人間の血はうまいんやで、きつと。

亨 お前…涼しい顔しやがって…。あの香取線香、あんなん
じゃやかへんやろ…ベープマットにせえ、ベープマットに…

丈 電気代もつたいないやろ。

亨 ミミっちいこと言うなや。

丈 香取線香でじゅうぶんやんか。

亨 ここに紀子がいてみる…ぎやーぎやーいうて大変やぞ。あ
いつ、虫嫌いやさかいな。

丈 やぶ蚊なんか、虫のうちに入るかいな。

亨 おそろしいぞ…うちにはな、ゴキブリホイホイはもちろん、
ベープマットのほかに、ありとあらゆる殺虫剤が置いてあつ
て…虫が入って来ようもんなら、あつちこつち大噴射や。

丈 あいつ。田舎の人間のくせに。

亨 最近ではダニも怖がってて、俺なんかしよつちゆうフアブリ
ーズ買いにいかされるわ…どうも、虫に対して過剰な恐怖心
があるみたいやな…（気づくところあつて）…ああ…！もし
かしたら、あのレモン畑は、親父にとつての殺虫剤なんかも
しれへんな…強烈なレモンの臭いで、なにもかも消そうとし
て…あ…ハハハ…わかつたぞ…丈…お前はな、色んな事を
忘れよう、忘れよう思て、感覚が麻痺してるんや…香取線香
でええやなんて、かわいいこというて、実は親父の作った殺
虫剤まみれなんや…ハハハハハ…

丈、ムヒを亨の鼻に押し付ける。

亨 うわっ、なにすんねんお前！
丈 これでも嗅ぎやがれ…！
亨 ちよっ…やめろや、（鼻が）キーンとするやろ！キーンて！

丈、亨、液体ムヒのキーンとした臭いを互いに嗅がせよ
うと、熾烈な戦いを繰り広げる。
奈津子と咲が入ってくる。

奈津子 あんたら何してるん！

亨 （劣勢のなか…）なっちゃん、ムヒが、ムヒが！

奈津子 丈…やめなさい！

攻防はねばり強くなかなか終わらない。

奈津子 丈！

丈 （しぶしぶ離れて…）兄ちゃんが悪いんやで…！

奈津子、ムヒを取り上げ、

奈津子 言葉で説明できへんから、力づくで言い聞かせようと
する。アンタの悪い癖！

亨 怒られよった。

奈津子 亨、アンタもお兄ちゃんやろ。からかわんというて。

咲 大人げない…

奈津子 せっかく、兄弟二人久しぶりに会うたのに…

丈・亨 …（反省）

奈津子 咲ちゃん、あとで離れの荷物持っておいで。今日はお

布団2階に敷くから、お父さんと一緒に寝て。

咲 え、なっちゃんここで寝る。

奈津子 あんなどこ、寝られへんでしょう。

奈津子、台所に行く。

亨 なんや、お前らも喧嘩か。

咲 ううん、雨漏り。

亨 雨漏り？

咲 外、すごい雨で雨漏りしてきて、それでこっちに避難してきてん。

丈 (窓の外を見て) いつの間にも…
(窓の外を見て) 本格的やな。

奈津子、酒の一升瓶を抱えてやってくる。

奈津子 はい。(丈に一升瓶を渡す)

丈 なに。

奈津子 あつちで、男だけで飲んできなさい。

丈 …

亨 雨漏りしてるんやろ。

奈津子 場所提供するから、なんとかしてきて。

亨 ええー。

奈津子 (丈に) 前に吹き込んできたとこ、ビニールシート外れただけやから。

丈 …ツマミは。

奈津子 戸棚にスルメ、入ってるから。

丈、亨に一升瓶を渡すと出ていく。

亨 おい…

亨、丈についていく。

奈津子 寝室には入らんといてよ！

咲 また、喧嘩せえへんかな。

奈津子 男兄弟なんて、お酒飲んだら仲直りするわよ。

咲 なつちゃん、こっちで寝えへんの？

奈津子 だって、あつちが私の家やもん。

咲 こっちもなつちゃんの家やんか。

奈津子 こっちでは…寝られへんの！

咲 ええやん、私がいつしよに寝てあげる。

奈津子 ごめん。私、一人がええねん…

咲、突き放されて…間。

咲 なつちゃんの離れ…建て直すん？

奈津子 誰がそんなこと。

咲 お母さん。

奈津子 …

咲 なつちゃん、知らんの？

奈津子 初めて聞いたわ。

咲 なあんや。なつちゃんが、丈さんをお願いしたんかと思っ

てた。

奈津子 それも、紀子さんが言うてたの？

咲 私が勝手にそう思っただけ。

奈津子 …

咲 なつちゃん…丈さんと、お母さんが昔つきあってたって、

ほんま…？

奈津子 あんた、そんな事も知ってるん？

咲 うわ…ほんまやったんやあ…

奈津子 …ほんの数カ月の話よ。

咲 弟とつきあった後で、お兄さんと結婚したんや…やるなあ、

お母さん。アハ、もしかして二股やったとか…？

奈津子 母と娘って、そんなに何でも話すもんなん？

咲 うちはな、お母さんの妄想がすごいねん。

奈津子 妄想…

咲 お母さん、お父さんが浮気してると思ってる。
奈津子 え。

咲 お父さんにそんなこと出来るはずないと私は思ってるねんけど、お母さんはしょっちゅう心配して、ずうっとイライラ、イライラしてる。虫が嫌いっていうの、あれも妄想：「虫がいる、虫がいる」って、すぐヒステリーおこして殺虫剤振りまくの。今日ここに私を送り込んできたのも、お母さんの妄想。浮気させないための見張り番ってことでしょ：バツカミたい。

奈津子 それは：紀子さん、お父さんのことがまだ好きなんよ。
咲 あのお父さんが：？丈さんのほうがずっとかっこいいやん。バスケ部のキャプテンしてたんでしよう、昔。

奈津子 美化したらあかんよ、くじ引きのキャプテンやで。
咲 立場が人を育てるっていうやんか。今でもなんか、オーラあるもん。

奈津子 そうかなあ：
咲 なっちゃん、丈さんにドキッとするこたないのん？

奈津子 何言いだすん：
咲 なんかの本に載っててんけどな、人は会う回数が増えるほど、その人を好きになるらしいで。

奈津子 ほんまに？
咲 実はな：私、その説に信憑性があるかどうか、試してみてる。クラスメイトの男子のなかで、私と最も関係の薄い人って、誰かなあ？：と探して探してみたら、いっちゃん席の遠い、伊藤君って男子に気が付いてん：教室で、私が一番後ろの左端で、伊藤君が一番前の右端：一回もしゃべったことのない男の子。それで、伊藤君の住所調べて、バスとか、靴箱とか、塾の帰りとか：！たまたまのフリして、何回も会うようにしてみてる：もちろん、好きとか、そんな素振りは一切見せへんの：そしたら、告白された：！

奈津子 伊藤君に？
咲 そう：ハハハハハハ：！

奈津子 その伊藤君とは、つきあってるの：？
咲 まさか！

奈津子 流行ってるの：そんな遊び。
咲 遊びやないよ、実験よ：私だけの。私：人生に成功したいの：だから、今のうちにいろいろ試してるだけよ：

奈津子 咲ちゃん、ちよつと悪趣味ちがう：？
咲 真剣なんよ、私。周りの大人みたいに、将来負けたくないの：

奈津子 (少し笑って) 私も、その一人：？
咲 なっちゃんは違うよ。

奈津子 どうして。
咲 あの、ボロボロの家が新築になったら、なっちゃんの勝ち。
奈津子 そんなこと、思っていないよ。
咲 私、見てあげる。

咲、奈津子の肖像画を見て、

咲 ええなあ、なっちゃんは：絵なんか描いてもらって。私も描いてもらおうかな：ねえ：そしたら描いてるうちに、私の事も好きになるかな：丈さん。

奈津子 バカ！
咲 なっちゃん。私もなっちゃんは髪が長い方が似合うと思うよ。

奈津子 なによそれ：
咲 見てたの、私。

奈津子 なにを：
咲 だからなっちゃん、あわてて窓、閉めたんでしょ。
奈津子：
咲 フフフフ：アハハハハハ：

咲の笑い声と雨の音重なり：溶暗。

第二幕

1

三カ月後。

2016年一月。イエローレモン収穫期。

「七風村」阪神・淡路大震災二十一年メモリアルイベントを一週間後に控えた、晴れた日曜日の午後。

誰もいない姫田家の居間。

扇風機と蚊取り器は姿を消し、果物かごのレモンは、イエローレモンに変っている。

収穫したレモンのケースが積んである。

扉が開き、黒いコート姿の茜が現れる。

ふと窓から、坂道を登って来る二人の人物を見つける。

そのうちの一人が日登美であるかもしれぬ事に気付いた

茜は、徐々に驚きの表情を増してゆく。

茜、あわてて階段の陰に身を隠す。

室井と日登美が入ってくる。

日登美 ええ、ですから。太宰はチェーホフの『桜の園』という作品に影響を受けて『斜陽』を書いたんです。

室井 へえー。

日登美 真似するのがいけない、なんて思わなくていいんじゃないですか。芸術というのは、模倣からはじまるものなんですから。

室井 せやけど…一生懸命読めば読むほど、この『斜陽』という小説はスピーチの参考にするには向かへん気が…

日登美 どのへんが…

室井 不幸すぎる…

日登美 まあ、そういう意味では確かに。

室井 この村は悲しいことがありすぎた…不幸なことは、もうええんです。

日登美 じゃあ、そのことを笑って見たらどうですか。ワツハツハツ。

室井 笹倉先生、テキトーなこといわんとってください。

日登美 だから、先生はやめてください。

室井 いや、もうあなたは俺の先生なんです。一蓮托生、スピーチが出来上がるまで離しませんで。

日登美 私、テキトーなことを言ったつもりはありませんよ。

室井 俺はね…今回のスピーチで、本気でこの村の人たちを励ましたい、応援したいと思ってるんです。特に、この姫田家の人たちを…

日登美 姫田家の…

室井 安芸子ねえやんが亡くなってからの姫田家は悲劇の連続やった…『斜陽』では、一家のあるじが亡くなって、主人公の家族は次々不幸に見舞われますけど、姫田家の場合はねえ

やんが、一家の要やったんです…。一階で朝ごはん作ってた姉やんが家の下敷きになって亡くなって…その五年後には、

神社の剪定にかり出された大將が、松の木から落ちて…

日登美 そうだったんですか…レモンの樹は高さがなくて、から、おかしいなって…

室井 ほんま…笑い話みたいですが…笑ったらアカンのですが…ハハ…

日登美 あ…室井さんは、茜さんのことは何かご存じなんですか。

室井 茜ですか…

日登美 確か、高校から家を出たとか…

室井 あの子は、なっちゃんと呼び合いが悪くて…勉強だけはよう出来たんで、奨学金もろて全寮制の学校に入って、それ

きり…

日登美 どんな子だったんですか、茜さんは…

室井 いつも真っ黒な服装で…挨拶ひとつせえへん…。大將に

は悪いですけど、あんな根性悪の娘、みたことありません。しかも、ものすごい肥満児でしてな：七風村の「曙」言われてましたわ：今は痩せて別人みたいになってるらしいですけど、想像つきませんわ。なっちゃんも、よう泣かされてました：

日登美 でも、その茜つて子も、苦しかったんじゃないんですか。：確か、事件を起こしたとか：

室井 事件：？

日登美 どんな事件だったんですか：

室井 何のことか、俺には：

日登美 誰にも言いませんよ。

室井 ：

日登美 私と、室井さんだけの秘密です：

室井 ：

日登美 そうですか：ご存じないんですね：では、譲さんに聞いてみます。

室井 笹倉さん！その：（言葉を探して）その話は、なっちゃん

んが傷つくんです。せやから：

日登美 室井さん。

室井 はい。

日登美 この間、私のお尻触りましたよね。

室井 ああ、あれは、俺のスポーツマンシップというかチャ

レンジ精神というか：

日登美 あの時、おっしゃいましたよね。もうしません。なん

でも言う事聞きます。私はあなたの奴隷です：

室井 いや、そこまでは。

日登美 やっぱり譲さんに聞いてみます。

日登美、二階にあがろうとして、

室井 噂です…！

日登美 噂？

室井 中学の教師にしゃべった嘘が、噂になったんです。事件ちゆうほどのもんやありません。

日登美 どんな：

室井 丈となっちゃんが：できてるって：

日登美 ：

室井 それ以来、なっちゃんはあのオンボロの離れで寝泊まりするようになったんです。：

日登美 そうだったんですか：

室井 でも、あの噂のせいで、離れに移ってから、男連れ込んでるとか、いろいろ言われて。俺はね、ねえやんのかわ

りに茜が死んだら良かったのにと、今でも思います：

日登美 …室井さん！

室井 悪いですけど、そう思ってしまうんです。実はね、うち

も地震ではおふくろが亡くなりました：

日登美 ：

室井 寝たきりやっただんで、一階で寝かせてて：やっぱり下敷きになったんですわ。

日登美 知りませんでした：

室井 でもね、今になってみたら、妻やなくてよかった：正直

そう思います：もし、妻が死んで、おふくろが生きてたら：？

ウチもたぶん、姫田家と同じように閉じ紐をなくしたノート

みたいにバラバラになってましたわ：

日登美 室井さん：

室井 はい。

日登美 閉じ紐をなくしたノート、良い表現です：

室井 は…？

日登美 それが文学です。太宰を読んだ甲斐がありましたよ：

室井 あ、いや、はあ：ハハ：

二階から亭が降りてくる。

日登美 あ：

室井 来てたんか。なっちゃんと丈は？

亨 なっちゃんは咲と買物、丈はちよつとバス停まで。

室井 なんや、誰か来るんか。

亨 うん、まあ。そちらは…？

室井 笹倉日登美さん、作家の。

日登美 だから、作家じゃありませんよ。

亨 ああ…姫田亨です。丈の兄です。今日は、東京から…？

日登美 ええ…

亨 熱心なんですね…

日登美 そんな…

室井 えらい、気に入られてはるんや。それで明後日も、大将

が「ついて来い」ゆうてな…

日登美 すごいですね、市長から感謝状なんて。

室井 行政は式典で盛大にやりたかったらしいけど、大将のほう

が「車椅子でなんか出られるかい」と、まあこうや。

亨 笹倉さん…嫌なら嫌って、言うてくださいね。

日登美 これも取材ですから。市長室なんて、めったに行ける

ものでもないですし。

室井 それにしても笹倉さんも…こんな田舎に来て、頑固な大

将と上手い事やって、とうとう市長室にまで行くちゆうのは

…溶け込む力ちゆうか、プロの取材力ちゆうのは、恐ろしい

もんやね…

日登美 (微笑)

室井 (亨に) 大将、今日は調子でないや…

亨 ちよつと喘息が出てるけど、まあ大丈夫やろ。

室井 お前も一緒に行くんやろ、市長室。

亨 いや、俺は明日帰るから。

室井 なんや、そのために来たんとちゆうんか。

亨 …おっちゃん、スピーチ原稿はどうなってるんや。来週や

ろ。

室井 それがやなー…まだ出来てへんのや。

亨 何しててん、正月の間。

室井 お屠蘇飲んで寝てた。

亨 間に合うんかいな、ほんま…

室井 フフフフフ…

亨 なんやその不敵な笑いは。

亨のスマートフォンが鳴る。

亨 (画面を見て) 丈ですわ。(出て) もしもし…え、いない？

…(小声で)…どうして…二時のバスって…ああ…ああ…(室

井と日登美に) すみません…ちよつと失礼します…

亨、スマートフォンを片手に外に出る。

日登美 どうしたんでしょうか…

室井 俺、見てきます…

日登美 …

室井 いや、こう見えても姫田家のご意見番ですさかい…ハハ

ハ…すぐ戻ります…市長室のダンドリは後で…

室井、出ていく。

日登美、所在なげに絵など見ている。

茜が出て来る。

茜 なにしてんのよ。

日登美 …！

茜 バツカじゃないの…あ、ムカツク、あのエロおやじ言い

たい放題しやべりやがって…

日登美 (いささか再会に感動しながら)…久しぶり！

茜 なんであんたがここにいるのよ…

日登美 気が付いたら、いつの間にか…

茜 んなわけねーだろ！お前は夢遊病者か！

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

日登美 そうかもしれません。

茜 なんなんだよもう。

日登美 あの…

茜 なによ。

日登美 また会えてうれしいです。

茜 それ、いま言うセリフ!!

日登美 だって…。(クスッと、思い出し笑い)

茜 なによ。

日登美 あなた、太っていたのね。だから昔の写真、みせてくれなかったんですね。

茜 ほっとしてよ! ああ、一緒にいるだけでムカムカする。

とにかく、今すぐここから出てって。

日登美 そんな訳には…

茜 なんでよ。

日登美 あなたの、お父様と約束しましたから。

茜 聞いてたけど…どういうつもり。

日登美 阪神・淡路大震災から二十年―玉葱畑の風評被害から再起をかけた「七風レモン」。姫田譲の挑戦…プロジェクト・エックス!…取材です。七風レモンの。

茜 嘘ばかり。

日登美 …え。

茜 あんたが調べてるのは、別の事よ。

日登美 別の事?

茜 とぼけないでよ。確か、私がこの畑から薬物のドラム缶が出て来た話したら、食いついてきたよね…。地震で土手に亀裂が出来て…、なんだかよくわかんない液体が滲みだしてきて…

日登美 第二次世界大戦中、日本は様々な薬物を作っていたんです。瀬戸内海の島で。

茜 やたら調べてたよね。そういうの。

日登美 私のライフワークですから。

茜 知ってるわよ。

日登美 七風村にも、棄てられた可能性があります。

茜 ほら…やっぱりそっちじゃない。まだあきらめてないわけ?

日登美 あなたも言っていたでしょう、いつか本にしたいって。

茜 アンタは、

茜 …

日登美 この窓からも、海岸線が見えるんですね。覚えていますか? 二人でいった岬。「ここから見える夕陽はとても大きく赤く見えるんだ」って言うから、どうして? って、たずねたら…

茜 …

日登美 秘密を全て塗りつぶそうとしてるのよ…って…

茜 いいよ。別にあんたがまた、この村に棄てられてたかもしれない薬物だか毒だかの話を世の中に暴いて、レモン農家が全滅したって、私の知ったこっちゃないし。

日登美 あなたも望んだことじゃありませんか。資料だって…

茜 とにかく、私はもうあなたに身の回りをウロウロされたくない、ただそれだけなの!

日登美 一緒にやろうって、約束したじゃありませんか。

茜 もう、その気はなくなったの。

日登美 どうして…

茜 とにかく、とつとと帰りなさいよ東京に!

日登美 茜さん。何故あなたはそんなに、私を嫌うんですか。

茜 嫌ってる? 私。

日登美 じゃあ…まだ嫌ってない?

茜 すぎるんじゃないわよ、嫌いよ、大嫌い!

日登美 どうして分かってくれないの? 私は、なぐさめてあげたいだけなのに。あなたは可哀相な人だから。

茜 だから今でも、私につきまよって…なぐさめてくれようとして…

日登美 ええ…そうですよ。

茜 よ、け、い、な、お、せ、わ、よ!

日登美 あなたは、一人なんかじゃ生きていけないでしょう。

私というパートナーがいたから、会社を辞めて編集者として独立出来たんです。とてもじゃないけど、あなたに社会人としての人付き合いは出来ませんよ。

茜 そうかしら：あなたが思ってるほど、私バカじゃないのよ。
日登美 どうして出て行ってしまったんですか：仕事は順調そのものでした：ライターの仕事がいて、編集者のあなたがいて：二人だから出来た仕事も沢山あったじゃありませんか：

茜 そうね。家賃も半分で済んだし。

日登美 はい。締切があると事務所に泊まり込んだりして、楽しかった。二人のお茶碗があつて、お湯呑みがあつて、パジャマも私が買ってきて：あなたがピンクで：私が緑：フッフ。

茜：

日登美 私、あなたと一緒にお茶を飲むのが好きでした。覚えていますか？オーガニック・ローズヒップティー。あなた、あれが美味しいっていうから、切らさないように、いつも代官山で買ってきました：

茜：

日登美 あんなに楽しかったのに、どうして出て行ってしまったんですか：何も言わずに：

茜 パンツよ。

日登美 え。

茜 あんた、私のパンツ履いてたでしょう…！

日登美 パンツ：

茜 パンツだけじゃないわ。いつも私のもの使ってた。私の湯呑み、私のお茶碗、私のお箸、私のタオル…！

日登美 一緒にいたら、仕方ないじゃありませんか。

茜 私は嫌だったのよ…！

日登美 だったら、言ってくれれば：

茜 言ったわよ、何度も何度も。でもあんたは、「そうですか、気にしないでください」ってシレッツとして、ちっとも直してくれなかった…

日登美 だって、友達じゃありませんか。

茜 友達…？友達って、人のパンツ履くものなの？

日登美 どうしてそんな事、気にするんですか。

茜 おぞましい、汚らしい、けがらわしい…！

日登美 …

茜 どう…？私…これ以上ないってくらい、あんたの事、嫌ってる…！

日登美 (茜に触れようとする)

茜 …やめてよ！

日登美 私…あなたの家族に、会って見たかったの…あなたの家族のなかにいて…あなたの事を感じ取りたかったの…

茜 おあいにく様！この家族の中に…私はいないから…！

間。

茜 ねえ、私…結婚するのよ…

日登美 え…

茜 だからもう一人じゃないの…あなたがいなくても、守ってくれる人がいるのよ…

日登美 …

茜 今日、ハンコを押したら私にもお金が入って来るわ…それで、中古のマンションを買うの。もう見つけてあるのよ、小さいけれど、リフォームしたら素敵になるわ…壁を白く塗り直して、床には、無垢の木を敷きつめて…私、幸せになるのよ…

日登美 …

茜 だからもう付きまとわないで…お願い…気がへんになりそうなの…

茜、泣いてしまう。

日登美 私は…あなたと…もう一度仕事をしたくて…

「檸檬の島」

丈 ないない、そんなこと。
咲 フフ…ね、私の事も描いてよ。
丈 咲ちゃん…？うーん、どうかな。
咲 なんて…？
丈 モデルは、そばにおらんと描かれへんからな。
咲 そしたら、ここに引越してくる。
丈 部屋がないやろ。
咲 なつちやんの家、新しくなったらそこに住む。
丈 小姑みたいなこと、言わんといてや。
咲 なに？小姑って…
丈 小姑…小姑な、ハハハ…
咲、ポーズを取る。
咲 ホラ。
丈 うーん。
咲 どんな絵になる？
丈 どんな絵かなあ…
咲 お母さんに似てない？
丈 え。
咲 好きやっただんでしよう、お母さんの事。
丈 誰がそんな…
咲 お母さんを好きになったみたい、私のことも好きになつてみてよ。
丈 …
咲 描いてもらっているうちに、私も丈さんを好きになるわ。
試してみるねん。誰かをそうして、好きになれるかどうか、お互いに。
丈 そんなに誰かに、好きになってもらいたい？
咲 うん。
丈 さみしいなあ…
咲 みんなそうやろ、みんな誰かに、好きになってもらいたい

んと違う？
咲、丈に近づくとキスする。
丈 …！
丈、すごい勢いで咲をふりほどく。
咲、その激しさに驚いて、
咲 …
と、ドタドタと茜が降りてきて、丈と咲を一瞥すると、出て行こうとする。
奈津子が後を追って降りてくる。
続いて亨も降りてくる。
丈 茜、どこいくねん！
茜 怒鳴られた…
丈 親父にか。
茜 「あのレモン畑を売るなんて許さへん」…て。何、いつの間にか全部私のせいになつてるわけ…？
丈 ちがうて。
茜 じゃあ、なんで私にだけ怒鳴るのよ…
丈 俺と間違ってるんや。それだけや。
茜 間違え？私と丈兄ちゃんを…？なにもかも違うじゃないの。
亨 曙やからしゃあないやろ。
丈 兄ちゃん！
奈津子 お義兄さん、最近はずを亨と想ってるし、私を安芸子ねえちゃんやと思うてるの。
茜 それで…私が丈兄ちゃん？ばかみたい…せつかく会いたいってあげたのに…情けないよ…
亨 仕方がないやろ…親父も、昔とは違うんや…

茜 なっちゃんも、丈兄ちゃんも、それでいいの？？ずっと世話してるのに、本人だつてわかってもらえない…そこまで我慢して、二人でここにいたい…？

亨 茜が聞いてる。

茜 知らないなら教えてあげるわよ。咲ちゃん、丈兄ちゃんと なっちゃんはね…

亨、茜の頬を叩く。

茜 あんたが死ねばよかったのよ…母さんのかわりに。

茜、出ていく。

奈津子 …あーあ、言われてしもた。

亨 なっちゃん…

奈津子 気にしてへんよ、慣れてるから。ほんまのことやし。丈 誰もそんなこと思てへん。

亨 そうや、おかんがいなくなつて、かわりにこの家支えてくれたんはなっちゃんやないか。

奈津子 茜ちゃん…追いかけてええのん。亨 ほつとけ。頭冷えたら帰つて来る。大事な用がまだやさかい…

奈津子 …

亨 …咲！

咲 なに？

亨 おじいちゃんの相手したれ。

咲 え…

亨、二階にあがる。

咲 丈さん…ホントに書いてね、私の絵…

咲、二階にあがる。

奈津子 あの子、お肉仕舞つてへんやないの…

丈 …

奈津子 なんかあつたん？咲ちゃんと…

丈 いや…

奈津子 気にせんととき。人との距離の取り方が、おかしいだけやから…

丈 ちよつと、歯磨いてくる…

奈津子 待つて…ほんまに売るのは、あの土地。

丈 ああ。

奈津子 亨も、反対してたんちゃうの…

丈 話したら、わかつてくれた。なっちゃんからもらった酒、飲みながら…

奈津子 なんかいややわ…騙したみたいで…

丈 あほいいなや。人聞きの悪い…

奈津子 せやかて、お義兄さん、あんなやもん…

丈 なっちゃん…

奈津子 ん？

丈 親父。もう、俺らだけでは面倒みられへんのとちゃうか…

奈津子 どういう意味？

丈 足が悪いさかい、徘徊とかはないと思うけど…完全に始まつてるやろ…

奈津子 何が…

丈 痴呆…

奈津子 施設に預けるってこと？

丈 最近は、夜中に何回もブザーが鳴つて…親父、ずっと、手え握つててやらんと、寝てくれへんし…限界や…

奈津子 私たち、二人きりになるってこと？この家で…

丈 …

奈津子 それは、アカンよ…

丈 なっちゃんの家は離れやろ。

奈津子 でも、同じ敷地やし。

丈 ほんならどうする？あの家、建て直す時に柵でもつくるか。

俺が乗り越えていかんように、鉄格子みたいなやつ。

奈津子 そんなこと、誰も言うてへんやんか…！

丈 言いたいような顔してたわ！

奈津子 なんやのあんた…全部、私のせいみたいに…そんな家、

いらん、私は、いらん！

丈 そしたら、この家に一緒に住むんか…

奈津子 そんな事できへんの、わかってるでしょう…

丈 一体、どないしたいねん…

奈津子 そんなん、わからんわ。教えて…誰か、教えて！

亨が降りてくる。

亨 おい、また喧嘩か…上まで聞こえてるぞ。

丈 …俺、齒磨いてくる。

丈、去る。

亨 なんやあいつ、晩飯前に…

奈津子 お肉、冷蔵庫に入れてくる…

亨 なっちゃん。

奈津子 なに？

亨 今晚。なっちゃんも、ハンコ用意しといてな。

奈津子 …え？

亨 丈から聞いてへんの…？

奈津子 何を？

亨 やっぱり…

奈津子 え…

亨 色々話しおうたんや…なっちゃんが、一升瓶渡してくれた

あの晩…あいつ、べろべろに酔っぱらって…なっちゃんにも、迷惑かけたし…

奈津子 迷惑…？

亨 今更、どうしようもないのは、わかってるけど…でも…お

金くらいは…

奈津子 (動揺して) お肉…腐ってまうから…

奈津子、台所に去る。

肉を忘れている。

亨 なっちゃん…肉…！

やがて姫田家に夜が来る。

すき焼きを作る奈津子と咲。

亨、丈、やや遅れて茜が食卓を囲み、皆が鍋をつつく。

それはまるで夢のような、奇妙な笑顔のうちに…溶暗。

2

二日後。

連休明けの午後、市長室訪問の日。

車椅子がなくなっている。

ワンピースを着て、パールのネックレスをした奈津子が、

電話をしている。

奈津子 …はい…はい…。ほんま、すんませんでした。…あ

りがとうございます。ええ…

日登美が入ってくる。

奈津子、日登美に気付いて、

奈津子 (小声で) 今は落ち着いて…そしたら、また。

電話を置く奈津子。

日登美 …すみません。玄関、空いてたものですから。

奈津子 …今、何時かしら…

日登美 …早く来すぎてしまつて、私…

奈津子 …あの…悪いんやけど、今日は帰ってもらえませんか？

日登美 …え。

奈津子 …延期になつたんよ、市長室。

日登美 …どうして…

奈津子 …せつかく東京からお越しになつて、申し訳ないんやけど。

日登美 …いま、タクシー呼びますから。

奈津子 …レモン畑を売る話と関係してゐるんですか…？もしかして。

奈津子 …なんで…そう思いはるん？

日登美 …譲さん、気にしてらっしゃつたから…

奈津子 …お義兄さん…笹倉さんにはなんでも話しはるんやね。

日登美 …そんな…

奈津子 …だって、安芸子姉ちゃんやと思つてはるもん。最近は、

私やのうて、あなたをね…

日登美 …

奈津子 …お義兄さんをたきつけたん、笹倉さんやないの？

日登美 …たきつける？

奈津子 …レモン畑を売らないつて、言いだしはつたんよ…

日登美 …奈津子さんは、反対しないんですか？

奈津子 …私？私は…丈や、亭に従うだけよ…

日登美 …でも、あの斜面からは…

奈津子 …

日登美 …

奈津子 …笹倉さん、一体何が知りたいん…？

日登美 …私は…いつでも目に見えない真実が知りたいだけです

奈津子 …

奈津子 …なんやの、それ…

日登美 …奈津子さん…昔、高熱を出されたそうですね。あの場所

所に生えている木の枝をつまようじにしたら、唇が腫れて…

奈津子 …あれは、虫に刺されたんよ。熱もすぐ下がつたし。

日登美 …でも、茜さんの熱はなかなか下がらなかつた。

奈津子 …茜…？

日登美 …末っ子の茜さんです。

奈津子 …なんで茜が出て来るん？

日登美 …熱を出して寝込んだのは、奈津子さんと、まだ小さかつた茜さんの二人です。

奈津子 …

日登美 …奈津子さんはすぐに回復したけれど、子どもだつた茜

さんは長い間寝込んでしまつた。それなのに、病院にも連れて

ていつてもらえなかつたとか。

奈津子 …それも、お義兄さんが？

日登美 …茜さんがようやく布団から出られるようになると、ご

近所では、虫に刺された奈津子さんが一人熱を出したという

事になつていて…茜さんが何を言つても、誰にも信じてもら

えなかつた…

奈津子 …

日登美 …この家のレモンには、何が詰まってるんですか…？

ブザーが鳴る。

日登美 …二階にあがろうとする。

奈津子 …二階には、行かんといつて。

日登美 …私は、譲さんに呼ばれてここへ来ましたから。

奈津子 …もういないんよ、お義兄さん…

日登美 …え…

再び、ブザーが鳴る。

日登美 …奈津子 …

日登美 …

日登美 …

日登美 …

日登美 …

日登美 …

日登美 …

そこへ、着崩れたスーツ姿の丈が降りてくる。
日登美、ただならぬ様子をみて、

日登美 ……!

二階へ駆け上がる日登美。
丈、椅子にぐったり座る。

奈津子 大丈夫…?

丈 なっちゃん、俺…

奈津子 さっき、室井さんから電話があつて…後の事は、任せ
たらええわ…

丈 「丈は、出来損ないや…」

奈津子 ……

丈 「この家の恥さらしじゃ…」

奈津子 ……丈。

丈 「しょうもない絵なんか描きよつて…才能も無いくせに
…!!」

奈津子 もうええつて。

丈 「亭…お前だけが頼りや、お前は頭もエエ、このレモン畑
を守ってくれる…ここにおつてくれ…長男はお前や、亭…頼
むで…レモン畑を売るやと…丈にはビタ一文…」

奈津子 丈!

丈 「この家の財産はやらん!」

奈津子 やめえつて…!

丈 親父。俺の事、兄ちゃんやとしか思つてへん。

奈津子 ……

丈 俺は、ここにおるのに…ここにずっとおるんやで…!

丈、レモンのケースをぶちまける。
いちめんにレモンが散乱する。

奈津子 やめて!丈…!

丈、顔を覆う。

奈津子 ……

丈 ……

奈津子、丈の背中をさすつてやる。

奈津子 お義兄さんが木から落ちた後…一人でレモン育ててき
たんは、あんたや…

丈 ……

奈津子 私は、ずっと見て来たよ…

丈 ……

奈津子 ……

丈、奈津子を抱きしめる。

奈津子、丈の頭を撫でて…

奈津子 あんたからはレモンの匂いがする…ええ匂いや…外で
働いてる人間の匂いや…

丈 ……

奈津子 私が昔から知ってる、潮風の強い…この家の匂いよ…

丈 ……

丈、奈津子を強く抱く。

丈 なっちゃん…俺には背負いきれんよ、親父のことも、レモ
ンのことも、あの、北の斜面に埋まつてるかもしれへん、見
えない何かも…

日登美が二階から降りてくる。
奈津子、日登美に気付く。

丈 なあ…ここから…出て行かへんか…

奈津子 …

日登美 …

奈津子、丈から離れる。
丈、日登美を見て、

丈 …

日登美 譲さんを、どこへやったんですか…

丈 笹倉さん…もう、帰ってもらわれへんやろか…

日登美 …

丈 それで、二度とここには来んといして下さい…

日登美 でも…

丈 あんた、うちの北の斜面について調べてたんやろ。

日登美 …

丈 茜から聞いたわ…一緒に働いてたいうて…

奈津子 …

奈津子、レモンを拾って、

奈津子 このレモンには何が詰まってるかって…さっき、たず

ねはりましたね…

日登美 はい…

奈津子 …時間よ。

日登美 え…?

奈津子 うちら家族が、過ごしてきた…それ以外は、何もあら

へん…

日登美 …

奈津子、レモンをテーブルに置く。

奈津子 笹倉さんには、関係の無い事よ。

日登美 いいえ、あります…

奈津子 …

日登美 このレモンが実っている限り、あなたたちの時間を私や、あなたがたの見知らぬ人たちが、口にするんです。わけのわからない何かを口にするんです。

丈・奈津子 …

日登美 だからあるんです。私にも、関わりが…!

丈 なんてやねん…

日登美 …

丈 俺ら、ただレモンを育ててきただけや…それで、なんで、責められなあかんねん…普通に生きてきただけやないか…!

日登美 あの土地は、あなたの場所でしょう!

丈 レモンを植えたんは、俺やない、親父や…

日登美 でも…いま、育てているのはあなたよ。お父さんの言

いなりになってるふりして…レモンの事も、奈津子さんの事

も、都合の悪い事にはみんな、目を背けているだけじゃない

ですか…!

丈 …帰ってくれ。

日登美 …

丈 帰ってくれ!

日登美 …あなた、いつか自分の絵に主題を持ちたくないと言

いましたね。

丈 ああ…

日登美 主題の無い絵なんて、何の価値もありません。私は、

そう思います…あの絵…あの絵は、奈津子さんでなく、あな

たです…なんにも出来ない、あなた自身です…

丈 …

日登美 さよなら…

日登美、去る。

奈津子 安芸子姉ちゃんが亡くなって、この家の時間は止ってしました。地震のあった、二十一年前の一月十七日、五時四十六分のまんま……

丈 ……

奈津子 けれど、お義兄さんが作りはじめたレモンのおかげで、また時間が動き出して。寝たきりになっても、お義兄さんが夢見たレモンの時間だけは止ってなかった。それが……いつの間にか、うちら以外の人の時間も、動かしていたんやね……

丈 なつちゃん……

奈津子 一緒に、出ていくことはできへんよ。だって、つぎはあんたが動かす番なんやから……

丈 俺が？

奈津子 そうよ。

丈 どうやって……

奈津子 想像するんよ……丈……明日には何をやる？

丈 ……

奈津子 明後日には何をやる？

丈 ……

奈津子 そのまた先の、そのまた先は……？

丈 レモンや……

奈津子 ……

丈 俺には、レモンしか……

奈津子 それが、あんたの未来なんと違う……？

丈 なつちゃん、どうするんや……

奈津子 さあねえ……あのおんぼろの離れも、もう住めそうもないし……

奈津子、ネットレスを外すと、丈に渡し、

奈津子 あげる。

丈 え……

奈津子 ネットレス。お姉ちゃんの。……あんたがもらっても仕方ないか……そうね、咲ちゃんに渡して……

丈 ……

奈津子 ……ねえ、物をあげるって、思い出をなくしていくことやと思わへん……？一つずつ、一つずつ、誰かに譲っていくと、いつの間にか、自分の思い出がからっぽになっていくの……そうして何もかもなくした時、玄関のドアをノックする音がして……そこに立ってるのは……誰やと思う……？

丈 さあ……

奈津子 見知らぬ誰かよ。その時、出迎える私も、見知らぬ誰かになってるのよ……

丈 ……

いつの間にか、夕暮れが近づいて、窓から差し込む光が赤い色に染まっている。

奈津子 見てよ……いつの間にか、こんなに真っ赤に染まって……

丈 (奈津子を見て) ああ……

奈津子 黄色いレモンが真っ赤になって……畑も……海も……なにもかも……

丈 あと、どのくらいやるか……

奈津子 何が……

丈 夜が来るまで……

奈津子 冬の夕方は、短いのよ……

丈 そうやな、冬の夕方は……

奈津子 ……

真っ赤な夕暮れが姫田家の居間を熟してゆく。

奈津子、窓の外に広がるレモン畑を見つめたまま……溶暗。

3

春間近の、三月の午後。

イーゼルの絵には、布が被せてある。

室井、テーブルコーダーに向かつて話し出す。

室井 あー、えー…コホン。笹倉先生。あなたは今、どこにいらつしやるのでしょうか。先生が俺のなかに芽生えた、文学の力を見つけてくださったあの日、姫田家から去っていく先生をレモン畑で見つけました。俺は、すぐに先生の後ろ姿を追いかけました。そして、先生を車でバス停までお送りしました。いくら話しかけても、先生は、一言も口をきいてくささいませんでした。ですが、俺がスピーチの秘策として手に入れた…ええと…コレ（一冊の本を取り出し、タイトルを読む）『誰でも上手くなるスピーチ術・例文つき』…息子が、アマゾンで買うてくれました。えー、これを見せますと、先生は「私は、『斜陽』を呼んでいる室井さんのほうが好きでした」とだけおっしゃって、バスに乗って行ってしまわれました。先生は、その後いくら電話をしても出てくささいませんでした。…先生、俺はあれからもういつかい、『斜陽』を読みました。『桜の園』も読みました。なんやようわからへんけど、俺らのことを書いているような気がしました。先生、俺はいつも、バラバラになったノートの閉じ紐になりたいと思っています。家族には要があると、お話ししましたけれど、でもそれは一人やない。我々は、誰もが、誰かの、閉じ紐になれる…今は、そんな気がしています。実はあれから…女性のお尻もさわってません。ほんまです。今の俺にはふさわしくないような気がしたからです。それでも、どうしても、チャレンジ精神がわいたときは、「さわらせていただけますか？」と、丁寧に聞いてみますが、無視されるか、ひっぱたかれます…

先生、俺は、現在の、そして未来の七風村の人たちに向けてスピーチを書きました。名刺に書いてあった住所に送りますので、聞いてください。えー、では…（室井、くちやくちやになった紙をポケットから取り出す）

段ボール箱を持った丈が入ってくる。

丈 おっちゃん、何してるねん。

室井 あゝ、今からつちゅうところやったのに。

丈 は？

室井 録音。俺のあの名スピーチを、笹倉先生に送ろうと思つて…

丈 自分の家でやりいや。

室井 嫁やら、子どもやらがうるそうて、できへんや。その点、ここは今、お前一人やろ…

丈 今日は一人やないで。

段ボールを持った、咲が入ってくる。

咲 重たあゝ…

段ボールを置く。

咲 お父さん、どこ行つたん？

丈 さあ…

咲 ぜつたいさぼってる。お母さんに、浮気してるって言いつけたんねん…

丈 煙草でも吸いに行つたんやろ、すぐ戻ってくるって。荷物、全部あつちに寄せといて。

咲 えゝ。

と、言いつつも、咲は段ボールを運ぶ。

室井 なっちゃんの荷物か？

丈 ああ…

室井 離れ、ほんまに取り壊すんか…

丈 建物診断してもらったら、かなりやばいって。なっちゃんもおらへんようになったし、親父も預けたし、ええタイムミングやと思つて。

室井 なっちゃん、どこ行ったんかなあ…

丈 …

室井 心当たりは？

丈 さあ…

室井 給食のおばちゃん、出来る所かなあ…

咲、段ボールを運び終えて、

咲 丈さん、終わったけど。

丈 ほな、次の荷物運ばか。

咲 ええ。

丈 さつさと行つて。

咲 ふええい。

咲、出ていく。

室井 えらい、言う事きくやないか。

丈 モノでつってるからな。

室井 モノ？

丈 ああ見えて、なっちゃんの事、好きやったんやろ。

室井 丈…

丈 …

室井 お前は、出ていかへんのか…

丈 え…

室井 なっちゃんが突然いなくなつて、大将の施設も見つかつて、お前一人や…もう、縛るもんじゃないやろ…

丈 …

室井 どこへでも行けや、金も入つてくるし…

丈 金は、入つてこんよ。

室井 なんや。

丈 …

室井 お前、市長からの感謝状、辞退したらしいな。

丈 親父がいらん、言うたんや。

室井 あの日、何があつたんや…

丈 ただの親子喧嘩や。

室井 ほんまに、大将に手えかけてへんねんな。

丈 そんなことするわけないやろ！

室井 スマン、スマン。

丈 まあ、寸前やつたけどな…

室井 え。

丈 なっちゃんが止めに入つてくれたから…それでも、親父も俺も頭に血がのぼつて…おっちゃんに来てもらわへんかったら、どうなつてたか…

室井 なっちゃんから電話がかかつてきて、大将が息してへんて聞いたときは、ビックリしたわ。

丈 おおげさやな、なっちゃんは…

室井 なんとものうて良かったわ…

丈 ショック療法いうんやろか…あれから時々、俺のことがわかるようになってきてな…

室井 ほんまか…

丈 「レモン畑は売らへん。そのかわり、調べさせてくれ」…

って、親父に言うたんや…

室井 …

丈 そしたら、好きにせえつて…それで、佐々木農園のおっちゃんには悪いけど、売らへん事に決めたんや。

室井 簡単やないで…あの土地のことは…

丈 茜がな…調べてみたいなんや…

室井 …茜が？

丈 親父の事、連絡したら…こつちに来るって…意外やろ？その時思い切って聞いてみたら、話したそうにしてたから…とっかかりは掴めそうや。

室井 大丈夫なんか…

丈 何が？

室井 お前らの…きょうだい関係ちゆうか…

丈 いっぺんちゃんと向き合ってみるわ。茜とも…亨兄ちゃんとも…

室井 閉じ紐をなくしたノート…

丈 は？

室井 いや…

丈 困るか？組合長としては…

室井 …

丈 これも、俺のレモンのためや…おっちゃん、わかってくれるやろ…

室井 お前、「俺の」って言うたか…

丈 …ああ。

室井 一生、かかるかもしれへんな…

丈、窓を開けて

丈 収穫の季節も終わりやなあ。

室井 …

丈 春が来ても、まだまだすることきょうさんあるわ…

咲が、段ボールを持って入ってくる。

咲 いつになったら終わるん？

丈 (室井を見て) 一人増えたから、スピードアップや。

室井 俺…(テープレコーダーを持って) 録音してくるわ、レモン畑の真ん中で…

丈 え、手伝ってくれへんのん。

室井 姫田家だけでやりなさい。丈 ちよっ…

室井、出ていく。

咲 ねえ。

丈 (びくつとする)

咲 ビビらんという。別になんもせえへんよ。興味なくなつてん、そういうの。

丈 え。

咲 なんていうか、オリジナリティがない事に気付いたというか…本気やなかったら、空しいだけよ。

丈 えらい、大人になつてんな…

咲 まあね…誰かさんのおかげかな。

丈 …

咲 なつちゃんからのプレゼントって、なに？

丈 秘密。

咲 はよ教えてくやろ。

丈 全部終わったらな。

咲 ケチ！

丈 そんなこと言うてええんかな、俺からもプレゼントあるで。

咲 えっ、なにになに。

丈 フッフッフ…

丈、イーゼルにかけてあつた布を取る。

咲 もしかして、完成？

「檸檬の島」

咲、丈、二人で絵を見る。

咲 「夕暮れの女」

丈 え。

咲 タイトル。

丈 そのまんまやな。

咲 せやかて、真っ赤な夕焼けやあ…

丈 ああ…

咲 なあ…

丈 うん？

咲 夕焼けの向こうに、人影があるけど…誰…？

丈 ようわかったな…

咲 私のアドバイス、反映させたんやね。

丈 アドバイス？

咲 ええよ。今回はアドバイス料、タダにしてあげる。

丈 金とるんかいな。

咲 この人。なっちゃん的事、迎えに来たんやろ。

丈 ああ…そうかもなあ…

咲 この絵…ほんまに、私がもらってええの…？

丈 完成した絵には、興味がないねん。

咲 ゲームオーバー…

丈 は？

咲 フフフフ…。丈さん、これからもレモン作るん？

丈 ああ…

咲 なんて？

丈 なんて…

咲 「どこへでも行け」って、室井のおっちゃんもさつき言うてたやん。

丈 お前、聞いてたんか。

咲 まあね…

丈 こいつ…

咲 だって、気になるもん。

丈 一人きりになつてなあ、考えてみたんや。今、俺がやりた
いこと。なんやと思う。

咲 海外旅行？

丈 飛行機怖い。

咲 パチンコ？

丈 煙草の煙が苦手。

咲 もつかい、芸大受けるとか。

丈 俺はもう画伯や。

咲 えい、わからんわ。

丈 レモンの収穫。

咲 は？

丈 腐ってしまう前に、レモンを収穫すること。

咲 地味！なんも変わらんやん。

丈 変わったよ…変わったんや…一人で考えて、一人で決めた
ら、俺にとつての、レモン畑が…

咲 じゃあ、どこにも行かへんのん。

丈 ああ。

咲 フフフ…

丈 なんやねん…もう。

咲 嬉しいの。

丈 …

咲 だから、ビビらんとつて…変な意味ちゃうから。

丈 なあ、咲ちゃん。

咲 ン？

丈 俺が死んでも、レモン畑、来てくれるか。

咲 まあ、暇やつたらね…私は虫、苦手やないし。…でも、私
が死んだ後は？

丈 え？

咲 私が死んだ後！その後は、誰が来るん？

丈 それは…咲ちゃんの子どもとか、孫とか…

咲 子ども、産まなかったら…？

丈 その時は…見知らぬ誰か、やな。

咲 見知らぬ誰か…
丈 そう、見知らぬ、誰か。

咲、窓の外に向かって叫ぶ。

咲 おおーい、見知らぬ誰かさーん！

丈 ハハハ…

咲 ねえ、その、見知らぬ誰かさんが来た時も…おんなじ匂い、
してるんかな？

丈 匂い？

咲 うん、レモンの。

丈 …そんなもん、するか？

咲 するよ。あの海から坂道をずーっと、風に乗ってこの家ま
で昇って来る…私はいつも、感じてたよ。

丈 そうかあ…

咲 今もしてるし。

丈 今も…？

咲 ねえ、思いつきり吸うてみて…（ふーっと息を吐いて）せ
えのお…

咲、丈、窓に向かい、レモン畑の匂いを胸いっぱい吸
い込んで…

了

【引用】

※1 「ドナドナ」（ユダヤ民謡／安井かずみ訳詩）